

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

進んでコミュニケーションを図ろうとする子供を育てる外国語活動の授業づくり
一心をつなぐ活動の工夫を通して一

(2) 研究テーマ設定の趣旨

「小学校学習指導要領」では、外国語活動の目標について次のように示しています。

外国語活動の目標(学習指導要領)

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う

この外国語活動の目標は、つぎの三つの柱から成り立っています。

目標における三つの柱

- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる

コミュニケーション能力の
素地を養う

○社会的背景と学習指導要領に求められている外国語活動の在り方

平成23年度から完全実施となった外国語活動が4年経過し、文部科学省は、平成25年12月「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」において、中学年に外国語活動導入、高学年に外国語教科化を発表しました。そして現在、平成32年に本格展開できるよう改革を推進しています。子供たちを取り巻く環境は急速に進展し、社会全体の国際化やグローバル化が加速してきているのが現状です。異なる文化との共存や国際協力が求められる中で、自分の感情や思いを表現したり、他者のそれを受け止めたりする、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成することが大切になってきます。これは、平成20年の学習指導要領に示されている「外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること」に関連します。教科化が見据えられている今、改めて他者とコミュニケーションを図る体験を通して、言葉を使って人とかかわる社会性(コミュニケーション能力の素地)を養うことが求められています。これが、小学校段階における外国語教育の大きなねらいであるといえます。

○児童の外国語活動に対する実態

文部科学省が平成26年度に全国の小学校で全面実施した小学校外国語活動実施状況調査の結果を見ると、小学校5、6年生の72.3%が「英語の授業が好き」と回答しています。また、中学校教員の92.6%が、外国語活動導入によって「英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」の成果が現れたと回答しており、児童の変容を肯定的に捉えています。授業に対する意識では、「英語の授業に進んで参加している、どちらかといえば進んで参加している」と回答した児童は71.4%でした。しかし、「英語の授業の中で楽しいと思うことはどのようなこと

ですか。」という問いに、「英語で友達や先生等の人の意見を聞くこと」と回答したのは59.5%にとどまりました。英語の使用に対する意識では、「外国の人が話し掛けてきたら、あなたはどのように思いますか」という問いに対し、47.3%の児童が「英語で受け答えする」、23.0%が「日本語で受け答えする」と回答しています。外国語活動に肯定的な児童の割合が大きいため、小学校での外国語活動が成果を上げていると思われる一方で、相手に積極的にかかわろうとする気持ちや意欲をもってコミュニケーションを図ろうとするまでには至っていない児童の姿が見えてきます。

豊かな人間関係を築くためには、「人とかかわろうとする気持ち・意欲・態度」が必要になってきます。そのためには、「自分の思いが伝わった」「相手の気持ちが分かった」と感じる心地よいコミュニケーション活動の体験を積み重ねていくことが大切です。そして、それらの活動の中で、子供たちの中に、異なる言語や習慣、文化をもつ人ともかかわっていきこうとする意欲や態度が育っていくことが重要であると考えます。

○本研究の目的

そこで、本研究では、現行のテキストである「Hi, friends!」を児童の実態に合わせて使用し、他教科等の学習内容や経験した活動、身近な人々や物事に関する内容を授業に取り入れ、相手意識や目的意識のある活動を設定します。その中で、児童が言葉に気持ちをのせて発したり、相手の言葉を受け入れながら聴いたりするような場面を設定します。そして、他者へのかかわりの中で相手を理解しようとする気持ちをもったり、自分のことを受け入れてもらえた喜びを感じたりする体験をさせていきます。そのような体験をする活動を「心をつなぐ活動」とし、外国語を通じて、自分や他の人の良さに気付く心地良いかかわりができたことを実感させていきます。相手を見つめ、互いに分かり合おうとする「心をつなぐ活動」は、単元全体を通して仕組み、心地よいコミュニケーション活動の体験を重ねさせていきます。外国語を通じて、人とかかわることの楽しさを体験させていくことで「人とかかわろうとする気持ち・意欲・態度」を育てていくことが、中学校・高等学校での外国語学習を支える基盤となります。そして、それが「生きる力」につながっていくと考えます。このように、「心をつなぐ活動」を取り入れていくことが有効であることを検証することで、外国語を通じて、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童を育成する授業づくりについて探りたいと考え、本研究主題を設定しました。

(3) 研究の目標

外国語活動において、外国語を通じて、進んでコミュニケーションを図ろうとする意欲・態度を育成するために、人とかかわることの楽しさを体験させることで、コミュニケーション能力の素地を養う指導の在り方を探る。

(4) 研究の方法と内容

- ① 外国語活動におけるコミュニケーション能力の素地を養う指導についての先行研究や文献等を基に、情報収集や理論研究を行う。
- ② 児童の人とのかかわりに関する意識の現状把握のため事前実態調査及び分析を行い、それに基づき、人とかかわることの良さが実感できる外国語活動の授業づくりや指導の在り方を探る。
- ③ 第5学年の単元において検証授業を行い、児童への事前事後のアンケート分析や毎時間の振り返りカードの記述、児童の行動の評価をし、「心をつなぐ活動」の有効性を検証する。